

駒澤大学0 (5PK4) 0福岡大学



【左】決められれば負けという土壇場にPKをストップして見せた牧野。守護神として十分すぎるぐらいの動きを見せた【下】福岡大の6人目が外すと歓喜の輪が。貴重な勝利を駒大は手にした



7月11日 13:55 長居第二陸上競技場	
駒大0 (関東4)	福岡大 (九州)
PK戦経過 (○内数字は背番号)	
【駒】1⑥○2④×3⑨○4⑧○5⑤○6⑧○	
【福】1②○2⑩○3⑨○4②○5③×6⑥×	
KOMAZAWA	FUKUOKA
GK①牧野利昭(2)	GK①杉山 哲(4)
DF④小林 亮(3)	DF③加藤秀典(4)
DF②廣井友信(1)	DF④長野 聡(3)
DF⑤鈴木祐輔(3)	DF⑥井上星童(4)
DF②桑原 靖(2)	DF⑨登尾頭徳(2)
MF⑦田中信成(4)	MF⑦小井手翔太(4)
(98分)⑩筑城和人(11)	(66分)⑨林 幹貴(3)
MF⑩橋本早十(4)	MF⑬林 賢志(3)
(72分)⑩根本真吾(2)	(83分)⑩和泉徹也(3)
MF⑧中田洋介(4)	MF②衛藤 裕(2)
MF⑥中後雅喜(3)	MF②川田和宏(3)
FW⑬巻 佑樹(1)	FW②奈良崎寛(4)
(69分)⑨原 一樹(1)	(78分)⑩吉田慎一郎(4)
FW⑨赤嶺真吾(2)	FW⑩田代有三(3)
S U B	S U B
GK②浦原準一郎(3)	GK②赤星 拓(1)
DF③栗原健次(3)	DF②大野史裕(1)
MF⑦岩本哲也(3)	MF⑨岡田昌司(3)
FW⑩関 光博(3)	FW⑤高橋大輔(2)
MANAGER 秋田浩一	MANAGER 乾 真寛
警告(C)/退場(S)	
【駒】39分:小林亮1(C)	
【福】91分:吉田慎一郎(C)、92分:長野聡(C)	
[シュート]13:6[枠内シュート]4:2	
[決定機]15:1[GK]9:15[CK]13:6	
[PK]1:0[直接FK]5:24[間接FK]2:7	
[OS]2:7[主審]梅本博之[観衆]約150人	

【左】PKを失敗してみんなに迷惑をかけた(中田)。しかし、中田(左)はプレーでチームを引っ張った【右】今大会、無失点の守備陣。廣井もこの試合、一年生ながらユニバ代表の田代などをおさえ勝利に貢献



気持ちで勝った駒大が 3年連続の決勝へ！！

主将・中田のPK失敗後も気後れすることなく攻め続けた駒大に軍配が。

事実上の決勝戦とも言える戦いをものにした駒大は、決勝への切符をめぐって福岡大と準決勝で激突した。試合は序盤、100人以上の応援団が駆けつけた福岡大が支配。結局、今日のディフェンスラインは集中して、すこく良かった(牧野)と言ったように、最後の場面で福岡大に自由にプレーさせず得点を許さない。結局、前半は両チームディフェンスの陣地もあり、無得点で折り返した。

後半、原と根本を投入し、勝負点が出るがフィニッシュの精度を大きく得点には至らない。しかし、39分フリーキックのこぼれ球を拾った鈴木がFW顔負けのすどどドリブル。たまたま相手はペナルティエリア内でファールを犯してしまい駒大はPKを獲得する。このチャンスにキッカーは主将の中田。だが思い切りよく放たれたシュートは相手GKの左手によって阻まれてしまった。

延長戦でも両者決着がつかずPK戦へ。PK戦は両者、1本目を決めて迎えた2本目。小林が放ったシュートは、この日再三好セーブを見せてきたGK杉山に止められてしまう。この後は両者ともきつちりと決め、福岡大5人目のキッカーは加藤。決められれば終わりという場面で「前の4本とも、全部自分が思っている方と逆だったので、この時は自分の思っている方と逆に飛んだ」という牧野。その読みは見事的中し、駒大を絶望の淵から救った。このPKストップが福岡大に傾いていた流れを駒大にグイッと引き寄せた。6人目、駒大は原がきつちり決めたのに対し「相手は完全にびびっていた」(牧野)という福岡大のシュートはゴールをとらえきれず右へ。結局、自分たちを最後まで信じ、勝負をあきらめなかった駒大が3年連続で決勝の舞

※上記データは全て左側の数字が駒澤、枠内シュート、決定機は本誌記者による記録です